

会

報

社団法人 日本病理学会  
 〒113-0033  
 東京都文京区本郷2-40-9  
 ニュー赤門ビル4F  
 TEL: 03-5684-6886  
 FAX: 03-5684-6936  
 E-mail jsp-admin@umin.ac.jp  
 http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第224号

平成18年(2006年)9月刊

### 1. 第3回日本病理学会カンファレンス報告

平成18年8月3日～4日に開催した第3回病理学会カンファレンスの実施状況につきまして、報告いたします。  
 —「本質を見極め」、「地境を広げて」、「コンセプトを作る」—

第3回日本病理学会カンファレンス

世話人 樋野興夫(順天堂大学医学部病理学)

8月3日-4日の2日間、「第3回日本病理学会カンファレンス『疾患モデルの命題:本質を見極める』」が、東京・鷗外荘で開催された。昼時には近くの東京芸大OBの演奏会もあり、近所の人が気軽に食事を楽しむ、都心とは思えぬ佇まいがあり、会議を終えて一步出た途端「娑婆に出てきた」ような気分である。森鷗外は医学者、しかも文筆の大家である。また鷗外は「東洋」と「西洋」両方の学識を備えた「二本足の学者」の大事さを語ったという。病理学会も、いわゆる「ダブルメジャー(診断病理と研究病理)」の時代を迎え、静思する時である。

カンファレンスには病理学会員のみならず非学会員を含めて90名の参加者があり、活発な質問により、会場は、満員感が漂った。夜遅くまでのポスター発表は、異分野の交流の場でもあり、学問的出会いの場でもあった。時間に制約されない合宿形式の本カンファレンスの強みでもあろう。

今回のシンポジウムのテーマはタイトル通り「本質を見極め」、且つ「地境を広げる」ことである。病理学にかつての勢いが失われる現実の中、その建て直しを図る目的があったことは否めない。無論、一朝一夕に片付く問題ではない。「がんの大成」のごとく、長い時間軸をとって観ないとその本質はわからない。「病理学」の歴史そのものに立ち返るべき問題でもある。

そこで、思い出す人物は、日本が誇る病理学者「山極勝三郎」、「吉田富三」である。山極勝三郎はコルタールをウサギの耳に塗り続けて人工的に癌をつくったが、その発想はウィルヒョウの「刺激説」そのものを証明しようとしたのであって、区々たるコルタールの発ガン性の証明を目的としたのではない。山極勝三郎の一生はオリジナル(本質)の探求の連続であり、ある程度の成果を挙げると10年おきぐらいに柔軟にテーマ(地境)を変えている。

山極勝三郎にしても、吉田富三にしても、「自らのオリジナルで流行を作り出した」のであり、単に流行と目先の成果を追い求めたのではない。彼らのように「コンセプト」を作れる人間になるにはどうすべきか、またどう育てるかが、現代に生きる、病理学者の「目下の急務」といってよい。

今回、医学、文学に類い希なる才能を発揮した森鷗外の「上野の文化と歴史が薫る不忍池のほとりの、“心おちつく”」旧居で、「空間」と「時間」と「学問のテーマ」を共有して、じっくりと語り合うことが出来たのは、大いなる学びの時であった。終了後、多数のメールを頂き、好評のようであった。主催者としては、一安心である。特に「各演者の内容のレベルの高さ」が共通した意見であった。良いものに触れることは、学びの原点であろう。

「舞姫」など後世に残る名作を世に出した、「首都・東京に今も残る」この旧居で、参加者の中から、将来、世界に発信する「学問」が芽生えれば、望外の喜びである。この旧居で第3回日本病理学会カンファレンスが開催された根拠がここにある。

以上

### 2. 技術講習会—分子病理学の基礎技術—6の受講者の募集について

—組織検体を用いた網羅的分子病理学的解析—

下記の要領で参加者を募集しています。会員諸氏にはふるってご応募されますようにご案内いたします。

記

1. 日時: 2006年11月22日(水)  
第52回日本病理学会秋期特別総会前日 13:00-17:20
2. 場所: ダイワロイネットホテル和歌山  
(秋期特別総会会場)
3. モデレーター: 安井 弥 (広島大学)
4. 受講料: 5,000円 (ハンドアウト代含む)
5. 応募, 問い合わせ, 参加決定:  
(1) 受講希望者は, 受講を希望すると旨とともに, 氏名, 所属, 会員・非会員の区別, 連絡先 (住所, 電話番号, FAX番号, E-mail address等) を記載の上,

以下の応募先までお申し込みください。

応募先：社団法人日本病理学会事務局

TEL：03-5684-6886 FAX：03-5684-6936

E-mail：jssp-admin@umin.ac.jp

内容の問い合わせ先：安井 弥（広島大学大学院医歯  
薬学総合研究科 分子病理学）

TEL：082-257-5145 FAX：082-257-5149

E-mail：w yasui@hiroshima-u.ac.jp

- (2) プログラムの詳細につきましては、日本病理学会ホームページ (<http://jssp.umin.ac.jp/>) をご参照ください。

---

## お知らせ

---

### 1. 第12回（2007年度）日本女性科学者の会奨励賞の 公募について

応募書類請求期間：平成18年10月2日（月）～10月31  
日（火）

応募期間：平成18年11月1日（水）～11月15日（水）

連絡先：日本女性科学者の会賞連絡事務局

濱中すみ子

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科・生命環境科  
学系・身体運動科学

FAX：03-5454-4317

E-mail：hamanaka@idaten.c.u-tokyo.ac.  
jp

### 2. 第1回トランスポーター研究会—トランスポーター の重要性と若手の交流について

会期：2006年12月16日（土）～17日（日）

共催：共立薬科大学，後援：（社）日本薬理学会

会場：共立薬科大学芝校舎マルチメディア講堂

連絡先：（第1回世話人）安西尚彦（杏林大医）

〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30

共立薬科大学薬剤学講座（事務局長）崔 吉道

TEL & FAX：03-5400-2553

<http://www.transpot.umin.jp/>